

西光寺だより

第一九二号 令和八年 七月一日発行

七月を迎え、梅雨も明けはじめ、いよいよ本格的な暑さの季節となりました。この時期になると体調管理などの言葉が飛び交います。私自身もそうですが皆さまもどうぞお身体大切になさってください。

さて、この暑い季節に、もう一つ「熱く」なっているものがあります。それは、四年に一度開催されるサッカーワールドカップです。私だけかもしれませんが、この大会を楽しみにしています。

試合前には、それぞれの国の国歌が演奏されます。国歌を聴いていると、長さや曲調、雰囲気も国によってさまざま、それぞれに個性があることに気づかされます。調べてみますと、国家はその国の歴史や文化、そして国民の誇りを象徴する特別な音楽だそうです。日本の国歌「君が代」は、『古今和歌集』に由来し、現存する国家の中で最も古い歌詞として知られています。また、世界で最も短い国歌は日本の「君が代」とされ、一方、最も長い国歌はギリシャの「自由への賛歌」で、全一五八番まであり、すべて歌うと五十五分かかるそうです。

さらに、スペイン、コソボ、サンマリノ、ボスニアヘルツェゴビナには歌詞のない国歌が採用されています。

代表選手たちは、その国歌を胸に刻みながらグラウンドに立ちます。日本代表の監督や選手が「君が代」を歌い、ときには涙を浮かべる姿を見るたびに、そこへ至るまでの努力や苦労、そして日本を代表する責任の重さを感じます。同時に、その舞台上に立てる喜びや感謝の気持ちも胸にあふれているのではないかと想像します。

スポーツには、人の心を動かす力があります。ワールドカップを楽しみながら、この夏の始まりを感じていただければと思うことであります。

合掌



● 今月のことば ●

『セミは、春と秋を知らない だから、夏も知らない』



出典…曇鸞大師『往生論註』※意識

セミは長い地中生活を経て地上に現れますが、それからの寿命はわずか一週間ほどと言われます。夏を精一杯に生きるセミの姿について、中国の僧・曇鸞大師は、このような言葉を残されています。

「セミは夏しか生きられないため、春や秋の存在を知らない。では、春や秋を知らない虫が、本当に『夏』という季節を知っているだろうか。夏以外の季節があることを知っている者（人間）だからこそ初めて、『セミは夏しか生きられない』と言えるのだ」と。

これはセミの話でありましたが、私たちを振り返ってみるとどうでしょう。私たちがまた自分の生きてきた人生、見ている世界しかわか

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>

りません。そんな私たちに阿弥陀様は、「あなたが命終わったとき、苦しみのないお浄土という世界に生まれさせる」と私のもとに至り届き、はたらきつづけておられます。

そのようにお聞かせいただいても、「そんなお浄土という世界が、本当にあるんですか？」と、つい思ってしまう。きつと夏しか生きることができないセミに「あなたが命終わった後には、あの緑の葉っぱが黄色く赤く染まる、秋という季節がやってくるんです。」と伝えても、「私が見たことのないそんな世界が本当にあるんですか？」と私たちと同じように思うのではないかと想像します。

また、仏教では、「人生は苦である。人生は思い通りにならない」とも説かれます。それを聞くと私たちは、「人生って苦しみばかりではない。楽しいこともあるよ。」とついつい言いたくなくなってしまいました。

しかし、楽しいこともいつか終わりがやってきます。楽しい場所や関係を維持するために、他の人に嫌われたくないために、時には自分を守るために他者を傷つけ、誰にも言えない苦しみ、悩み、秘密、悲しみを心の奥底に押しとどめ、精一杯生きています。思い通りにならないのが私たちの人生であり、私たちのあり様だと、仏様は見通されたのです。

限りなき命の仏様である阿弥陀様は、苦しみ多く、限りある命を生きる私たちのすべてをご覧になり、「苦しみや悩みを抱えて生きるあなただからこそ、救わずにはいられないんだよ」と、苦しみのない安らかなお浄土を建立されました。そして今「南無阿弥陀仏」という声となつて、この身体にひびき、「必ずお浄土に生まれさせるから、安

心なさい」と喚（よ）びかけ続け、常に私とご一緒くださるのが阿弥陀様です。

私の常識を横に置き、阿弥陀様のお喚び声を「真実」と聞き受けるとき、開かれる世界があります。

「私は、むなしく命を終えていくのではない。懐かしいあの人たちが先に生まれていかれた同じお浄土に、私もまた阿弥陀様に抱かれて生まれさせていただくのだ。苦しみ多き人生であったが、お浄土に生まれゆく命であったということを、聞かせていただくための人生だったのだ。」と、来世と現世に深く充実した意味が与えられるのです。

これからの暑い夏に、セミの鳴き声が聞こえてきたら、ご一緒にお念仏を称えませんか。そのお念仏の声を聞きながら、私たちの命の本当の意味を、仏様から聞かせていただきましょう。

△大谷本廟 月々のことば△

◆八・九月の行事◆

・八月 十五日（土）

盂蘭盆会法要

午後六時～

西光寺本堂